

令和元年度 教育事業
「絵の本ひろばとダンボール遊具で遊ぼう」



絵の本ひろばとダンボール遊具で遊ぼう

1. ねらい

- 多くの絵本や写真集と出会い、その魅力に触れる。
- 親子で一緒に本を親しみ、家庭での読書活動に繋げる。
- 心地よい空間で笑い合い、お互いを理解し合う。

2. 実施日

2月1日（土）～2月2日（日）1泊2日

3. 対象者

幼児、小学生とその家族
青少年の教育に関係・関心興味のある方

4. 参加者 / 募集定員

42名 / 15家族60名程度（日帰り50名程度）
〔未就学児13名 小学生9名 大人20名〕

5. 講師

絵の本あれこれ研究家 加藤啓子氏
株式会社こふれ 北中正紀氏
北中賢治氏

6. プログラム（要約）

心地よい空間の中で多くの本に出会い、親子で楽しむことを通して、家庭での本に親しむきっかけや環境作りを啓発する事業。講師を招き、効果的な絵本の読み聞かせ方や、生活と関わりのある図形について学ぶ場とした。2日目のプログラムで大人は「子どもたちにとって大切な空間環境デザイン」についてのテーブルトーク、子どもは図形の構造について学ぶことのできるダンボールイス作りを行い、双方にとっての学びの場とした。

スケジュール

【2月1日（土）】

開会式
親子で絵の本ひろば
○△□パズルで遊ぼう

【2月2日（日）】

大人：テーブルトーク
子ども：ワークショップ
閉会式

【1日目：2月1日（土）】



開会式後、アイスブレイクを行い参加者同士の交流を図った。初めは緊張していた参加者も、他の家族との関わりが増えていった。

その後プレイホールに移動し、「親子で絵の本ひろば」のプログラムとして、講師の加藤啓子さんからの絵本の読みきかせが行われた。その後は各々で自由に絵本を読んだ。



夕食後はダンボールパズルを使ったプログラム。まず始めに、講師の北中賢治さんから「○△□」の形の特性について学んだ。その後は2～3家族で1チームとなり、プレイホールの中にある図形

を探した。ダンボールの間の三角形や天井の形など、普段意識しない場所にもたくさんの図形が隠れていることを知った。

活動の終盤では、チーム毎に大量のダンボールパズルを使用して遊んだ。動物園や宇宙をイメージした班など、参加者はユニークな発想で学びながら、パズル遊びを楽しんだ。

【2日目：2月2日（日）】



2日目の活動は大人と子どもに別れてプログラムを行った。大人は「子どもたちにとって大切な空間環境デザイン」をテーマに、講師の北中正紀

さん・加藤啓子さんによるテーブルトークが行われた。子どもたちはエコロジーホールに入って、「ぶんぶん飛行機」と「ダンボールイス」作りを行った。ダンボール製だが、図形や空間デザインを工夫することにより80kgまでの荷重に耐えることのできるイスを作ることができた。改めて自分たちの暮らしに図形が関わっていることを知った。

7. まとめ



絵の本ひろばやワークショップを通して、家族でゆったりとした時間を過ごせた2日間となった。その中でたくさんの絵の本と触れ、その魅力を再発見すると共に親

しみも深まった。また、図形や空間デザインについての学びもあった。

参加者からは「親子で時間を忘れて楽しめた」、「達成感を味わえた」、「家庭でも実践したいことが多々あり、学びのある2日間でした」などの感想を聞くことができた。

（事業推進係員 栗原 雄暉）